

2017年8月4日

日本板硝子株式会社

2018年3月期第1四半期決算に関する主なご質問

- Q: 順調な進捗とのことだが、計画に対してはどうか？
- A: グループ全体として計画をやや上回りました。要因としては、特に生産性改善、コスト削減が貢献しています。数量・価格については、地域、事業によってプラスマイナスがあります。セグメント別には、建築用ガラス事業では、一過性のコストが発生した日本以外は計画以上、自動車用ガラス事業でも特に欧州で計画を上回りました。高機能ガラス事業も全ての事業分野で改善しています。
- Q: 建築用ガラス事業の各地域での増減要因は？
- A: 欧州はアップストリームでは販売数量が増加しましたが、ダウンストリームでは一部の国で減少しました。日本では、納入した一部の物件のガラスについて品質問題があり、取換費用が発生しましたが、一過性のものです。北米では、オタワ工場での冷修の影響及び主要顧客における設備切替の影響がありますが、いずれも年度計画に織り込んでいるものです。主要顧客での設備切替は2019年3月期まで段階的に行われると聞いていますが、後半になるにつれて影響は少なくなってくるとみえています。
- Q: 欧州の自動車用ガラス事業が現地通貨ベースで前年同期比減収となっている理由は？
- A: 欧州市場は好調です。第1四半期は、製品納入車種の立ち上がりタイミング等による影響がありました。当年度後半にかけて回復していくとみえています。
- Q: 高機能ガラス事業が、前年同期比で減収増益となった要因は？
- A: 売上については、ディスプレイが減収でしたが、それ以外の事業分野はいずれも増収となりました。ディスプレイについては、不採算品から撤退したため販売数量は減少しましたが、ベトナムのフロートラインを休止したことによりコストは低減しています。また、市場競争圧力が若干和らいだこともあり、一部製品の価格は上向いています。当年度末にかけて黒字化を目指して参ります。
- Q: 通常第2四半期は第1四半期に対して季節要因で落ち込むが、当年度の見方は？
- A: 一部事業では季節性があります。建築用ガラス事業や高機能ガラス事業の事業環境は引き続き堅調とみえますが、自動車用ガラス事業の特に新車向けではカーメーカーの夏季休業の影響などがあり、第2四半期は販売が落ち込むとみえています。また、その他地域(ベトナム)の建築用ガラス事業では定期修繕によるコスト増(2億円)の影響がありましたが、第2四半期はこの影響は無くなります。
- Q: 個別開示項目(当初計画で年間60億円の費用)の予想には変更ないか？
- A: 通期の見直しには変更ありません。第1四半期には、この項目の中に、米国オタワ工場での冷修に伴う設備休止費用が含まれています。この費用は第3四半期まで継続して発生する見込みです。一方、同工場の竜巻被害に伴う保険金の受取による利益もありました。また継続的に実施しているリストラクチャリングに関する費用も含まれ、これは通年で発生する見込みです。
- Q: 運転資本は第1四半期に例年増加するが、前年同期比でさらに30億円悪化している要因は？
- A: 第1四半期は、例年より運転資本の変動が大きかったが、計画の範囲内であり、通年では計画に沿って推移する見通しです。

当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提のもとについており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場(欧州、日本、北米、アジア等)の経済環境及び製品需給の変動、為替相場の変動等があります。